

令和4年

火災・救急・救助統計

松山市消防局

目 次

火災の状況	1
1 火災件数	
(1) 火災件数の推移	2
(2) 火災種別の構成割合	2
(3) 建物用途別件数	3
(4) 月別件数	4
(5) 四季別件数	4
(6) 時間帯別件数	4
(7) 地区別件数	5
(8) 地区別件数の推移	6
2 出火原因	7
3 死傷者	
(1) 死傷者数の推移	8
(2) 死者の状況	8
(3) 負傷者の状況	8
4 損害額	
(1) 損害額の推移	9
(2) 損害額の内訳	9
5 覚知方法別火災件数	10
6 初期消火の状況	10
7 署所別の火災状況	11
8 住宅用火災警報器の奏功事例	12

救急の状況

1	救急出動件数・搬送人員の状況	13
2	月別救急の状況	14
3	医療機関別搬送状況	14
4	署所別出動件数の状況	15
5	年齢別・性別搬送人員の状況	15
6	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	16
7	時間帯別出動件数の状況	16
8	現場到着所要時間の状況	17
9	収容所要時間の状況	17
10	応急処置実施状況	18
11	応急手当普及啓発活動の状況	19
12	地区別救急発生状況	20

救助の状況

1	救助出動等の状況	21
2	救助出動等の推移	22
3	事故種別・署別出動の状況	23
	事故種別出動件数と構成割合	24
	事故種別救助人員と構成割合	24
4	月別救助出動等の状況	25
5	事故種別・傷病程度別救助人員	25
6	発生場所別の出動状況	26
7	地区別救助出動状況	27

※統計中の構成比・実施比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

火災

火災の状況

令和4年中の火災件数は128件で、前年と比較し15件増加しています。
 火災による死者は8人(前年6人)、負傷者は29人(前年46人)となっています。
 また、火災による損害額は1億8,346万円で、前年と比較すると337万3千円増加しています。

(各年中) (▲減少)

区 分	単位	令和4年		令和3年		増 減 (A-B) C
		A	爆発	B	爆発	
火 災 件 数	合 計	128		113		15
	建 物 火 災 (住宅火災)	92 (54)		83 (56)		9 ▲ 2
	林 野 火 災	2		3		▲ 1
	車 両 自 動 車 火 災 鉄 道	4		7		▲ 3
	船 舶 火 災					
	航 空 機 火 災					
	その他の火災*1	30		20		10
焼 損 棟 数	合 計	132		124		8
	全 焼	22		23		▲ 1
	半 焼	3		5		▲ 2
	部 分 焼 ぼ や	31		29		2
	爆発損害棟数			1		▲ 1
焼 損 面 積	建物焼損 床面積	2,789		3,436		▲ 647
	〃 表面積	602		360		242
	林野焼損面積	9		6		3
死 傷 者	死 者 (住宅火災死者)	8 (8)		6 (5)		2 3
	負 傷 者	29		46		▲ 17
り 災 世 帯	合 計	106		93		13
	全 損	23		17		6
	半 損 小 損	8 75		4 72		4 3
り 災 人 員	人	227		196		31
損 害 額	合 計	183,460		180,087		3,373
	建 物	181,689		174,455		7,234
	林 野					
	車 両 自 動 車 鉄 道	1,321		4,914		▲ 3,593
	船 舶					
	航 空 機					
	そ の 他 爆 発	450 27		691 27		▲ 241 ▲ 27
出 火 率 *2	件	2.52		2.22		0.30

(注) *1 その他の火災とは、田畑や河川敷の枯草、屋外に放置された物件等が燃えた火災をいいます。

*2 出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいいます。
 (人口は、令和4年1月1日現在の住民基本台帳による)

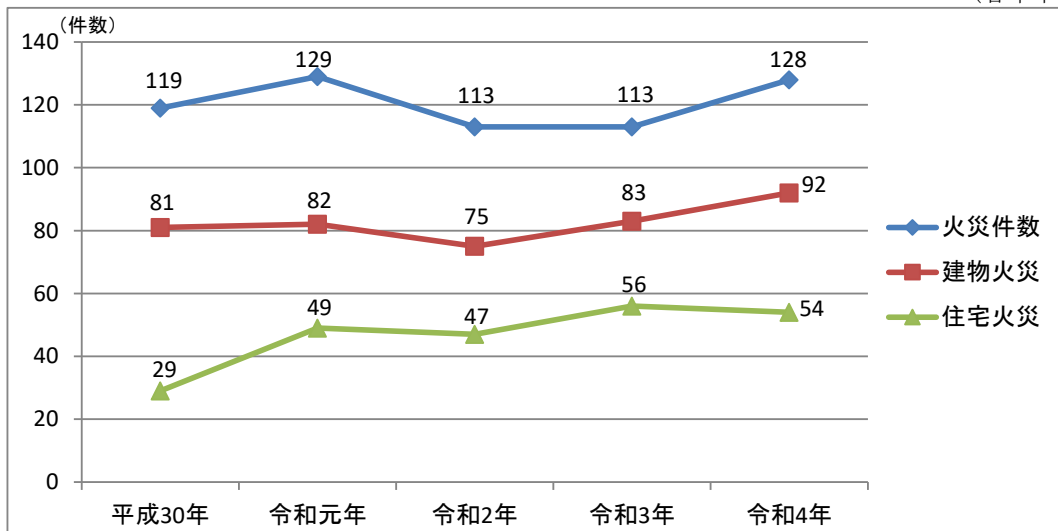
1 火災件数

(1) 火災件数の推移

火災件数は前年より15件増加した128件となっています。

また、建物火災件数は前年より9件増加した92件となっており、過去5年間平均値は82.6件です。

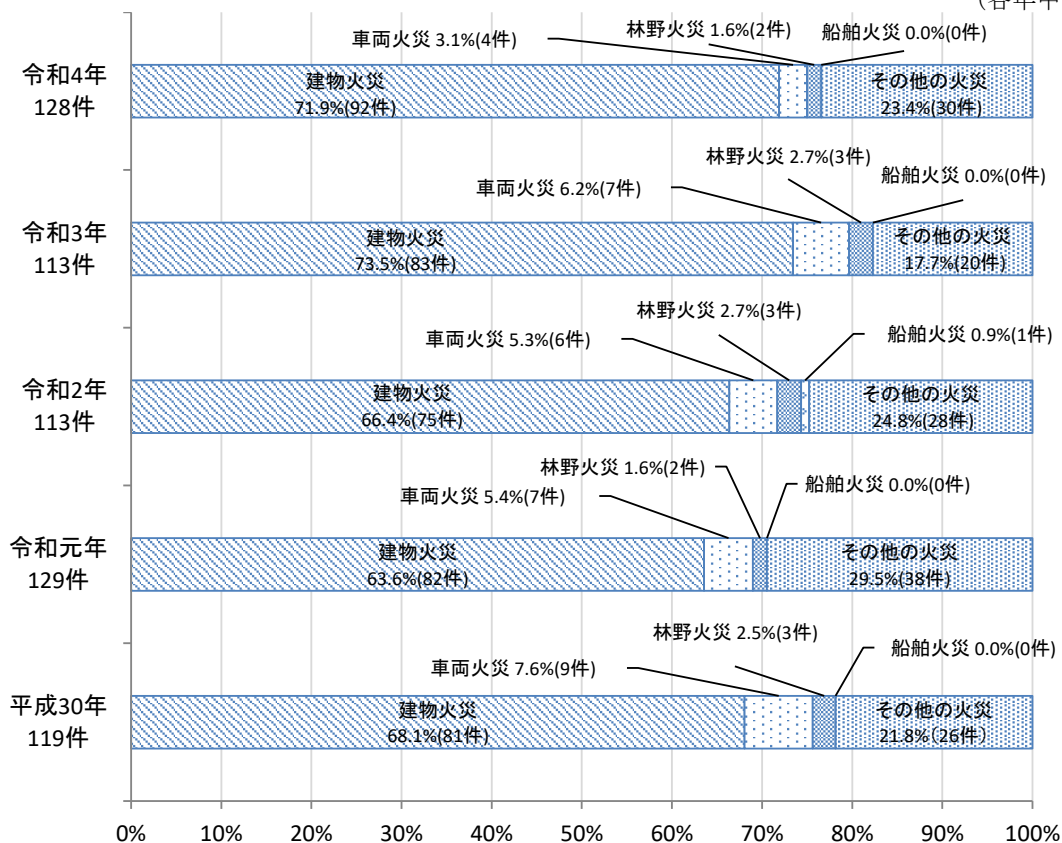
(各年中)



(2) 火災種別の構成割合

火災種別ごとの割合をみると、建物火災が全火災の71.9% (92件) を占めており、次いで、その他の火災23.4% (30件)、車両火災3.1% (4件)、林野火災1.6% (2件)、船舶火災0.0% (0件) となっています。

(各年中)



(3) 建物用途別件数

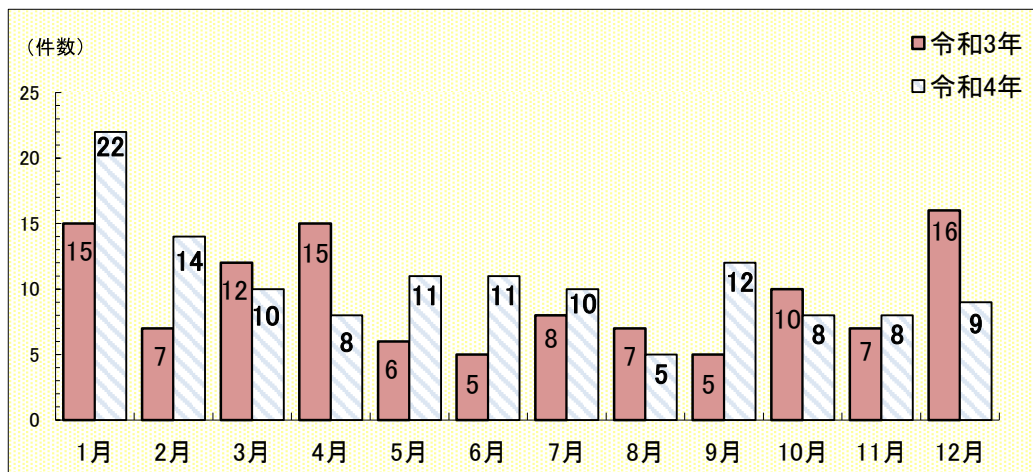
建物火災を用途別にみると、住宅（共同住宅・併用住宅を含む）の火災が54件と最も多く、建物火災全体の58.7%を占めています。

(各年中)

用途	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年
専用住宅	31	36	32	27	18
共同住宅	21	17	13	22	9
併用住宅	2	3	2		2
小計	54	56	47	49	29
劇場等					
公会堂等				1	
キャバレー等					
遊技場等					
性風俗施設					
カラオケボックス等					
料理店等					
飲食店	3	3	4	6	7
物品販売店舗等	1		5	4	1
旅館・ホテル等	1				1
病院等					1
グループホーム等					
社会福祉施設等					
幼稚園等					
学校		1	1	1	
図書館等					
特殊浴場					
公衆浴場	1				
停車場等					
神社・寺院等					
工場・作業場	7	1	6	4	5
スタジオ					
駐車場等	1	1			
航空機格納庫					
倉庫	1	1	3	5	4
事務所等	2	1		4	17
特定複合用途	9	5	3	2	7
非特定複合用途	5	3	2	2	6
地下街					
準地下街					
文化財					
その他	7	11	4	4	3
小計	38	27	28	33	52
合計	92	83	75	82	81

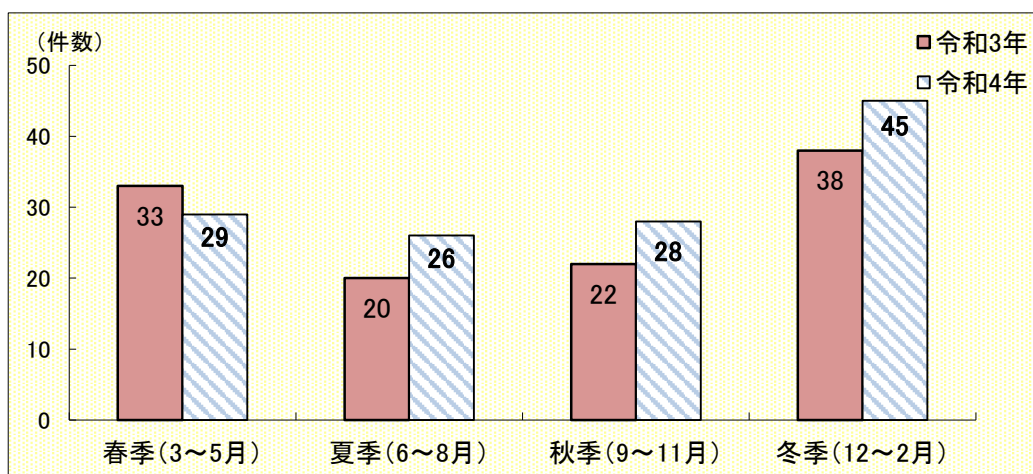
(4) 月別件数

火災件数を月別にみると、1月が22件で最も多く、次いで2月が14件、9月が12件となっています。(各年中)



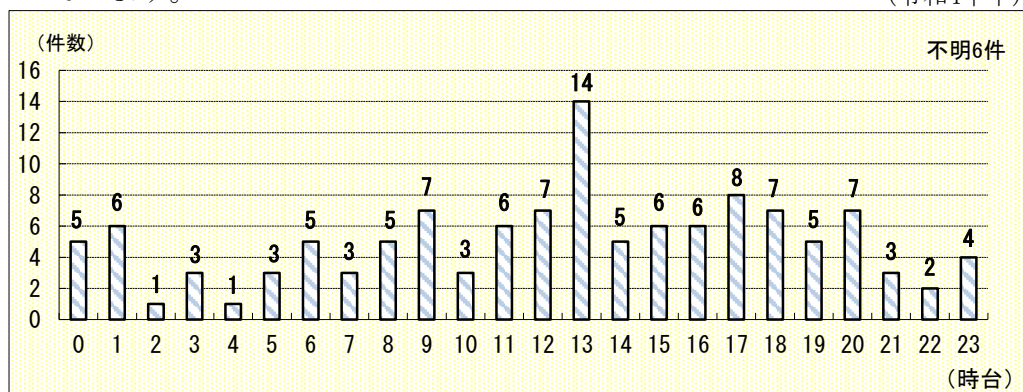
(5) 四季別件数

火災件数を四季別にみると、冬季が45件(35.2%)で最も多く、次いで春季が29件(22.7%)となっています。(各年中)



(6) 時間帯別件数

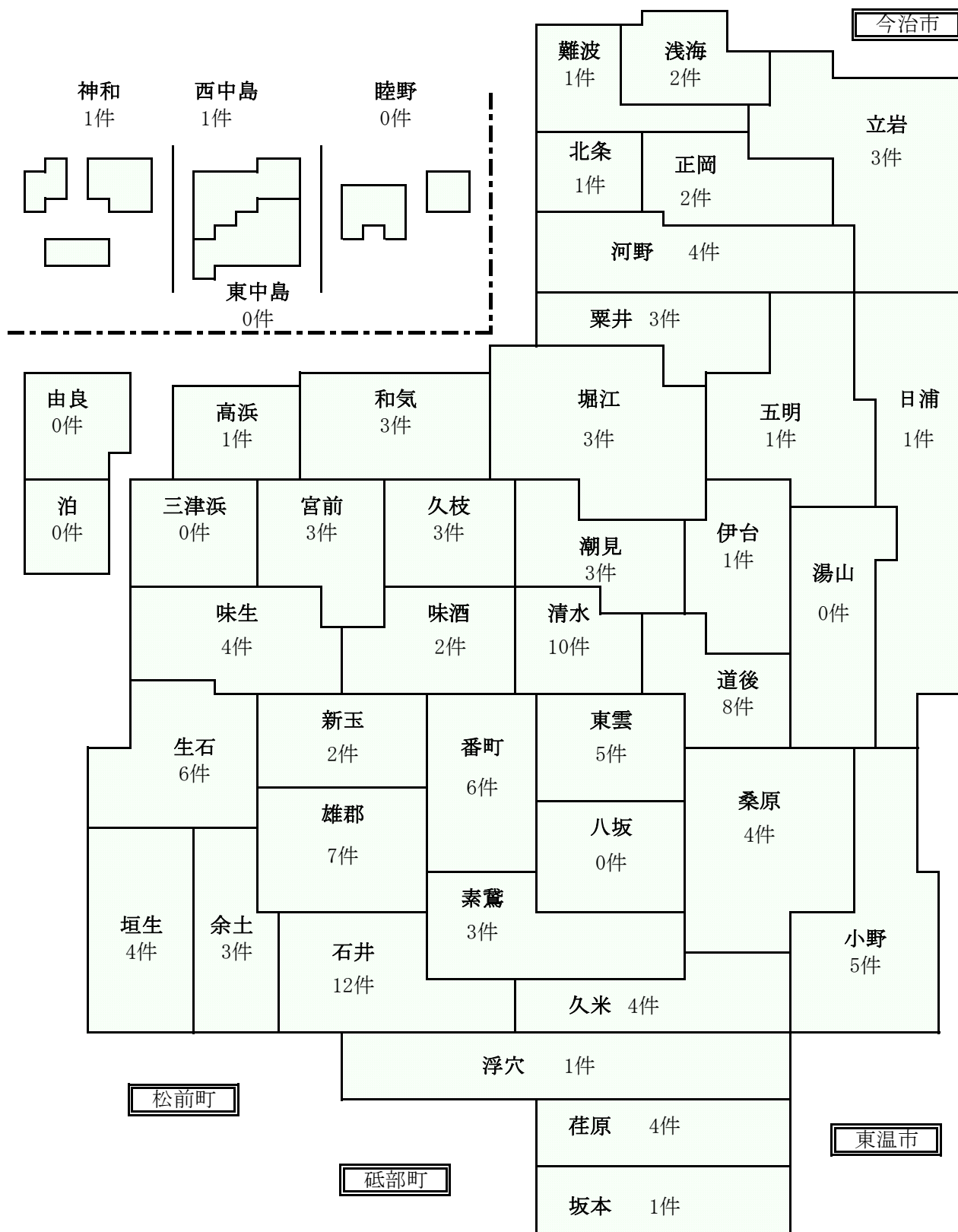
火災件数を時間帯別にみると、13時台が14件で最も多く、次いで17時台が8件、9時台、12時台、18時台、20時台が7件となっています。(令和4年中)



(7) 地区別件数

火災件数を地区別にみると、石井12件（前年8件）が最も多く、次いで清水10件（前年2件）、道後8件（前年4件）となっています。

(令和4年中)



※松山市基準地区（44地区）

(8) 地区別件数の推移

(各年中)

	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年
番町	6	5	3	3	7
東雲	5	3	4	5	2
八坂	0	3	2	1	2
素鷲	3	4	9	5	3
雄郡	7	6	7	6	3
新玉	2	2	1	5	3
味酒	2	4	3	3	5
清水	10	2	5	7	7
桑原	4	2	4	6	3
道後	8	4	5	7	10
味生	4	3	5	8	5
生石	6	4	3	7	5
垣生	4	2	3	0	5
宮前	3	1	3	3	5
三津浜	0	2	2	1	0
高浜	1	3	1	4	4
久枝	3	4	1	6	4
潮見	3	6	3	3	2
和気	3	5	1	4	2
堀江	3	3	0	6	4
余土	3	5	6	2	3
由良	0	1	0	0	0
泊	0	2	0	0	1
久米	4	5	3	4	3
湯山	0	0	3	1	2
日浦	1	1	0	0	1
伊台	1	2	0	0	1
五明	1	0	4	0	0
小野	5	8	2	3	5
浮穴	1	1	6	4	3
石井	12	8	9	8	8
荏原	4	2	4	4	4
坂本	1	1	2	2	1
浅海	2	2	3	0	0
立岩	3	0	1	2	0
難波	1	1	1	2	2
正岡	2	1	0	2	0
北条	1	0	0	1	0
河野	4	1	2	0	1
粟井	3	3	2	2	3
睦野	0	0	0	0	0
東中島	0	1	0	1	0
西中島	1	0	0	0	0
神和	1	0	0	1	0
合計	128	113	113	129	119

※松山市基準地区 (44地区)

2 出火原因

全火災128件を出火原因別にみると、「たばこ」が19件で最も多く、次いで「たき火」が16件、「こんろ」が14件となっています。

(各年中) (▲減少)

出火原因	令和4年	令和3年	増減
たばこ	19	10	9
たき火	16	17	▲1
こんろ	14	14	
放火	8	6	2
電灯等の配線	7	8	▲1
電気機器	7	5	2
ストーブ	4	8	▲4
電気装置	4	1	3
配線器具	3	3	
マッチ・ライター	3	1	2
灯火	2	3	▲1
風呂かまど	2	1	1
火入れ	2	0	2
放火の疑い	1	7	▲6
ボイラー	1	1	
煙突・煙道	1	1	
排気管	1	0	1
溶接機・切断機	1	0	1
衝突の火花	1	0	1
火あそび	0	2	▲2
かまど	0	1	▲1
焼却炉	0	1	▲1
内燃機関	0	1	▲1
その他*	16	12	4
不明・調査中	15	10	5
合計	128	113	15

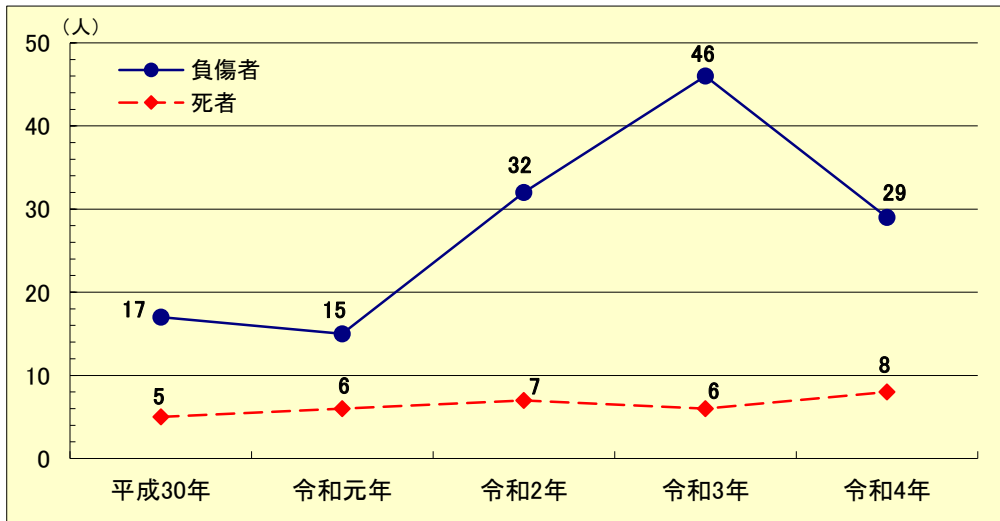
*出火原因の「その他」とはフライヤー、炭火、交通機関内配線などがあります。

3 死傷者

(1) 死傷者数の推移

火災による死者数は8人で、前年（6人）と比較すると2人増加しています。また、負傷者数は29人で、前年（46人）と比較すると17人減少しています。

(各年中)



(2) 死者の状況

死者を火災種別及び年齢層別で見ると、次表のとおりとなっています。

(各年中)

火災種別	令和4年	令和3年
建物火災	8人	5人
林野火災	0人	0人
車両火災	0人	0人
船舶火災	0人	0人
航空機火災	0人	0人
その他の火災	0人	1人
合計	8人	6人

(各年中)

年齢層別	令和4年	令和3年
5歳以下	0人	0人
6歳～64歳以下	3人	2人
65歳以上	5人	4人
合計	8人	6人

(3) 負傷者の状況

負傷者を火災種別及び受傷時の状況で見ると、次表のとおりとなっています。

(各年中)

火災種別	令和4年	令和3年
建物火災	26人	45人
林野火災	1人	0人
車両火災	1人	0人
船舶火災	0人	0人
航空機火災	0人	0人
その他の火災	1人	1人
合計	29人	46人

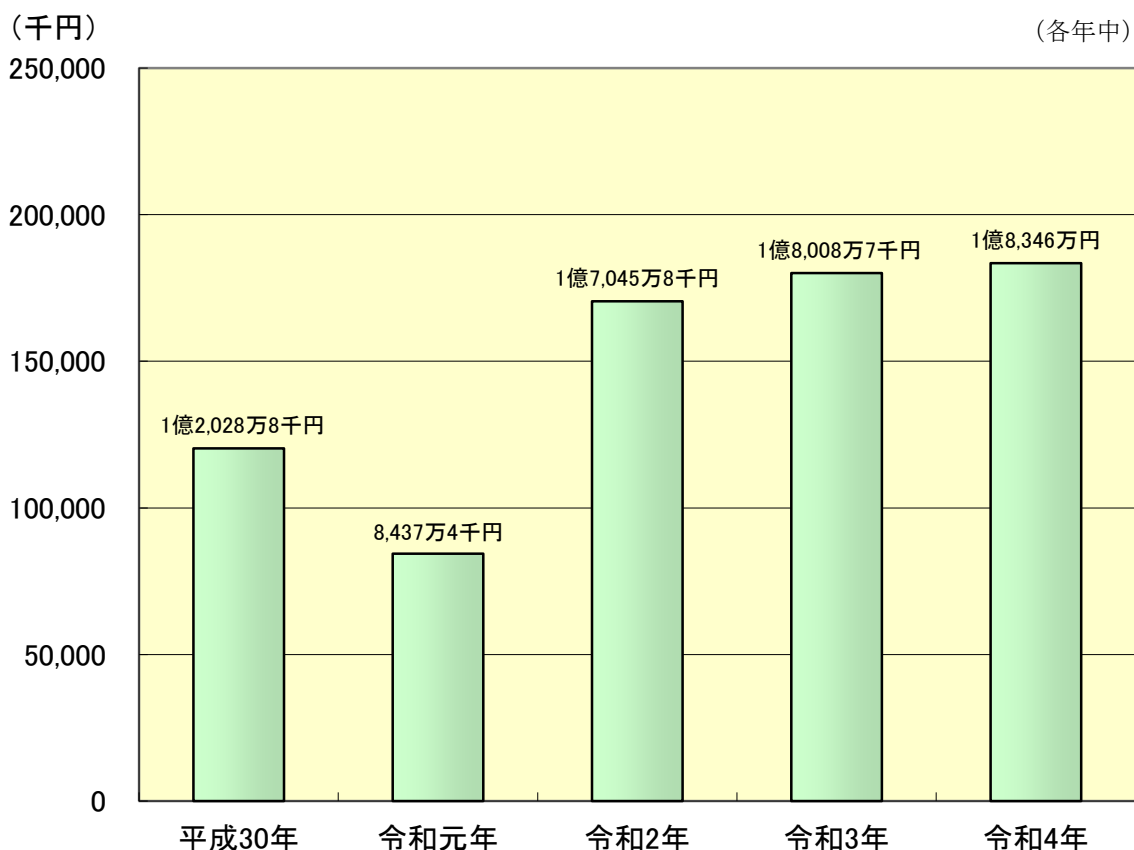
(各年中)

受傷時の状況	令和4年	令和3年
消火中	15人	15人
避難中	5人	21人
就寝中	1人	1人
作業中	3人	2人
その他	5人	7人
合計	29人	46人

4 損害額

(1) 損害額の推移

火災による損害額は、1億8,346万円で、前年（1億8,008万7千円）と比較すると337万3千円増加しています。過去5年間で1番多い額となっています。



(2) 損害額の内訳

火災種別ごとで過去5年間をみると、次表のとおりとなっています。

【単位：千円】

(各年中)

火災種別	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平均
建物火災	181,689	174,455	166,455	80,647	113,756	143,400
林野火災	0	0	0	0	0	0
車両火災	1,321	4,914	2,551	2,987	3,270	3,009
船舶火災	0	0	228	0	0	46
航空機火災	0	0	0	0	0	0
その他の火災	450	691	1,224	740	3,262	1,273
爆発	0	27	0	0	0	5
合計	183,460	180,087	170,458	84,374	120,288	147,733

5 覚知方法別火災件数

消防機関が火災を覚知した方法別にみると、携帯電話からの119番通報が53件で最も多く、次いで、事後聞知（火災鎮火後に覚知したもの）は33件となっています。（令和4年中）

覚知方法別	区分	件数	構成比 (%)
119（携帯電話から）		53	41.4%
事後聞知		33	25.8%
119（IP電話から）		17	13.3%
119（固定電話から）		9	7.0%
自己覚知		8	6.3%
警察電話		6	4.7%
加入（携帯電話から）		0	0.0%
加入（固定電話から）		0	0.0%
その他		2	1.6%
合計		128	

6 初期消火の状況

初期消火の状況をみると、初期消火が実施されたのは76件で、そのうち48件（63.2%）が初期消火に成功し火災鎮圧に効果がありました。

使用された初期消火器具等をみると、水道・浴槽等の水が36件で最も多く、次いで粉末消火器が18件となっています。

（令和4年中）

火災件数	128
初期消火実施	76 (59.4%)
初期消火なし	52 (40.6%)

初期消火使用器具等	実施件数	成功件数	実施比率	成功率
水道・浴槽等の水	36	21	47.4%	58.3%
粉末消火器	18	13	23.7%	72.2%
寝具、衣類等	6	5	7.9%	83.3%
その他	16	9	21.1%	56.3%
合計	76	48		63.2%

7 署所別の火災状況

(令和4年中)

署 別	区 分	件 数	死 者	負 傷 者	建物焼損	建物焼損	林野焼損	損 害 額
		(件)	(人)	(人)	床面積(m ²)	表面積(m ²)	面積(a)	(千 円)
中央署		52	5	13	1,414	255	9	91,399
	本 署	24	1	5	418	127	0	17,962
	城 北	12	1	1	114	21	1	8,189
	北 条	16	3	7	882	107	8	65,248
東 署		25	0	4	223	70	0	26,545
	本 署	16	0	3	119	61	0	15,918
	城 東	9	0	1	104	9	0	10,627
南 署		28	3	9	499	255	0	42,844
	本 署	22	2	8	334	184	0	37,973
	東 部	6	1	1	165	71	0	4,871
西 署		23	0	3	653	22	0	22,672
	本 署	16	0	3	599	22	0	15,069
	西 部	7	0	0	54	0	0	7,603
合 計		128	8	29	2,789	602	9	183,460

8 住宅用火災警報器の奏功事例（令和4年）

【事例1】警備員が駆けつけ、早期の通報につながった事例

共同住宅の一室で、警備会社に自動通報する住宅用火災警報器が作動し、駆けつけた警備員が火災を発見、119番通報を行った。

【事例2】近隣住民が警報音に気づき、初期消火に成功した事例

警報音に気づいた近隣住民が、ほかの近隣住民と協力して火災を発見。初期消火に成功し、被害を最小限に食い止めた。

【事例3】近隣住民が警報音に気づき、早期の発見、通報を行った事例①

警報音に気づいた近隣住民が巡回中の警察官と協力して火災を発見し、119番通報を行った。

【事例4】近隣住民が警報音に気づき、早期の発見、通報を行った事例②

警報音に気づいた近隣住民が周囲を確認したところ、住宅から煙が出ているのを発見し、119番通報を行った。発見が早かったため、消防隊の到着も早く、被害を最小限に食い止めることができた。

【事例5】火元住民が警報音に気づき、早期の発見、初期消火を行った事例

警報音に気づいた火元住民が火災を発見し、家族と協力して初期消火を行い、被害を最小限に食い止めることができた。

【事例6】火元住民が警報音に気づき、避難することができた事例

就寝中の火元住民が警報音が鳴っていることに気づき目を覚まし、初期消火は出来なかったが、軽症を負いながらも避難することができた。

●住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」、「避難」、「119番通報」をいち早く行うことができ、被害の軽減に役立ちます。

●住宅用火災警報器を設置されているご家庭では機器の点検をしてください。電池切れや故障の場合は、機器の交換をしてください。

●住宅用火災警報器の設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。

●日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

救 急

救急の状況

令和4年中の救急出動件数は28,390件、搬送人員は26,026人で、前年と比較し出動件数、搬送人員ともに増加しています。

これは、1日平均77.8件、18分31秒に1回の割合で救急車が出動し、市民19人に1人の割合で搬送されたこととなります。

1 救急出動件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・転院搬送・交通事故の順となっており、この4種別だけで出動件数全体の96.2%、搬送人員は全体の97.7%を占めています。

(▲は減少)

区分	単位	令和4年 A	構成比 (%)	令和3年 B	構成比 (%)	増減 (A-B) C	増減率 (C/B×100) (%)
出動件数	件	28,390	100.0	24,632	100.0	3,758	15.3
内訳	火災	99	0.3	122	0.5	▲ 23	▲ 18.9
	自然	0	0.0	1	0.0	▲ 1	▲ 100.0
	水難	17	0.1	22	0.1	▲ 5	▲ 22.7
	交通	2,058	7.2	1,881	7.6	177	9.4
	労災	161	0.6	160	0.6	1	0.6
	運動	151	0.5	156	0.6	▲ 5	▲ 3.2
	一般	3,962	14.0	3,579	14.5	383	10.7
	加害	90	0.3	86	0.3	4	4.7
	自損	266	0.9	208	0.8	58	27.9
	急病	17,882	63.0	14,937	60.6	2945	19.7
	転院	3,412	12.0	3,121	12.7	291	9.3
	その他	292	1.0	359	1.5	▲ 67	▲ 18.7
搬送件数	件	25,868	-	22,620	-	3,248	14.4
搬送人員	人	26,026	100.0	22,772	100.0	3,254	14.3
内訳	火災	21	0.1	39	0.2	▲ 18	▲ 46.2
	自然	0	0.0	1	0.0	▲ 1	▲ 100.0
	水難	5	0.0	8	0.0	▲ 3	▲ 37.5
	交通	1,922	7.4	1,790	7.9	132	7.4
	労災	158	0.6	159	0.7	▲ 1	▲ 0.6
	運動	150	0.6	160	0.7	▲ 10	▲ 6.3
	一般	3,741	14.4	3,396	14.9	345	10.2
	加害	84	0.3	80	0.4	4	5.0
	自損	193	0.7	147	0.6	46	31.3
	急病	16,368	62.9	13,885	61.0	2483	17.9
	転院	3,383	13.0	3,106	13.6	277	8.9
	その他	1	0.0	1	0.0	0	0.0
出動平均(1日)	件	77.8		67.5			
出動間隔		18分31秒		21分20秒			

※1 出動平均については、前年比1日あたり10件増加しています。

※2 出動間隔については、前年比2分49秒短くなっています。

2 月別救急の状況

出動件数、搬送人員ともに8月が一番多くなっています。

月別	出動件数	出動件数内訳												搬送人員
		火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	転院	その他	
1	2,337	19	0	4	147	8	6	333	9	22	1,469	281	39	2,115
2	2,139	9	0	0	122	11	4	305	4	18	1,373	257	36	1,946
3	2,215	7	0	9	164	9	6	298	7	18	1,378	297	22	2,051
4	2,089	8	0	0	174	14	12	307	6	20	1,250	277	21	1,928
5	2,173	8	0	0	184	6	17	325	11	32	1,290	279	21	2,025
6	2,327	4	0	0	190	21	19	311	4	16	1,470	264	28	2,155
7	2,489	8	0	0	176	17	18	321	8	20	1,612	288	21	2,323
8	2,877	4	0	0	179	12	18	348	8	27	1,947	314	20	2,594
9	2,232	7	0	1	161	19	15	301	7	23	1,431	250	17	2,036
10	2,322	6	0	0	178	19	13	373	9	25	1,391	289	19	2,156
11	2,355	5	0	3	181	20	13	341	9	29	1,447	289	18	2,153
12	2,835	14	0	0	202	5	10	399	8	16	1,824	327	30	2,544
計	28,390	99	0	17	2,058	161	151	3,962	90	266	17,882	3,412	292	26,026

3 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関23,918人(92%)、その他の医療機関2,109人(8%)、その他の場所0人となっています。

事故種別等 告示の別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	15,179	1,855	3,580	3,303	23,917
その他の医療機関	1,189	67	161	692	2,109
その他の場所	0	0	0	0	0
合計	16,368	1,922	3,741	3,995	26,026

※ 救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関のことです。

4 署所別出動件数の状況

松山市の救急車は、高規格救急車15台です。

うち1台は、令和4年10月から平日の日勤時間帯に機動救急隊として運用しています。

署所 種別	中央署				東 署				南 署			西 署			警防課	消防局	合計
	本署	城北	北条	*1 北条2	本署	城東	*2 WS	湯山	本署	東部	久谷	本署	西部	*3 本署2	*4 機動	非常用	
火災	8	12	15	0	10	11	8	3	7	6	4	6	7	2	0	0	99
自然	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水難	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	8	1	0	17
交通	259	153	58	25	175	322	235	74	212	123	60	134	208	5	14	1	2,058
労災	22	18	8	2	10	14	9	7	11	4	14	19	19	3	1	0	161
運動	13	5	10	1	8	13	13	2	22	5	8	11	38	1	1	0	151
一般	445	283	178	38	401	521	344	171	331	291	115	367	365	74	33	5	3,962
加害	9	4	0	0	11	22	14	0	10	4	0	10	6	0	0	0	90
自損	30	19	7	2	19	49	31	11	25	17	11	21	21	2	1	0	266
急病	2,205	1,215	724	174	1,657	2,489	1,733	691	1,678	1,136	517	1,482	1,765	193	170	53	17,882
転院	248	123	121	30	459	496	471	97	418	286	75	175	211	46	57	99	3,412
その他	23	10	2	0	17	34	148	7	11	7	3	8	19	1	1	1	292
合計	3,263	1,844	1,123	272	2,767	3,971	3,006	1,063	2,725	1,879	807	2,237	2,660	335	279	159	28,390

*1 消防隊兼務

*2 救急ワークステーション

*3 島しょ部対応、消防救急艇兼務

*4 平日日勤時間帯に運用

5 年齢別・性別搬送人員の状況

年齢別・性別で搬送人員をみると、高齢者が16,172人で全体の62.1%を占めています。

区 分	令和4年			令和3年		
	男	女	合計	男	女	合計
新生児	21	10	31	20	19	39
乳幼児	532	363	895	470	306	776
少年	446	288	734	364	300	664
成人	4,231	3,963	8,194	3,741	3,647	7,388
高齢者	7,782	8,390	16,172	6,507	7,398	13,905
合計	13,012	13,014	26,026	11,102	11,670	22,772

(年齢区分)

新生児 生後28日未満の者

乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者

少年 満7歳以上満18歳未満の者

成人 満18歳以上満65歳未満の者

高齢者 満65歳以上の者

6 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡322人（1.2%）、重症979人（3.8%）、中等症9,637人（37.0%）、軽症15,087人（58.0%）、その他1人となっており、軽症の占める割合が多くなっています。

種別 傷病程度	合計	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他
死亡	322	2	0	2	4	0	0	31	0	13	267	3
重症	979	1	0	0	31	6	1	74	0	20	579	267
中等症	9,637	6	0	0	205	40	16	1,079	7	45	5,186	3,053
軽症	15,087	12	0	3	1,682	112	133	2,557	77	115	10,336	60
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	26,026	21	0	5	1,922	158	150	3,741	84	193	16,368	3,384

（傷病程度）

- 死亡 初診時において、死亡が確認されたもの
- 重症 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
- 中等症 傷病の程度が入院を要するもので重症に至らないもの
- 軽症 傷病の程度が入院加療を必要としないもの
- その他 搬送したが医師の診断がないもの及びその他の場所へ搬送したもの

7 時間帯別出動件数の状況

出動件数が多い時間帯は、10時から12時が3,595件（12.7%）、8時から10時が3,257件（11.5%）となっています。

時間	種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
0時～2時		1,001	40	155	157	1,353
2時～4時		791	30	105	107	1,033
4時～6時		840	30	130	96	1,096
6時～8時		1,321	172	227	133	1,853
8時～10時		2,024	302	477	454	3,257
10時～12時		2,072	239	471	813	3,595
12時～14時		1,773	220	447	807	3,247
14時～16時		1,686	247	444	534	2,911
16時～18時		1,719	268	506	562	3,055
18時～20時		1,828	270	457	363	2,918
20時～22時		1,553	156	325	260	2,294
22時～24時		1,274	84	218	202	1,778
合計		17,882	2,058	3,962	4,488	28,390

8 現場到着所要時間の状況

救急自動車による現場到着時間は、10分未満が18,055件（63.6%）となっており、現場到着時間の平均は9分54秒となっています。

現場到着 事故種別	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	合計	平均所要 時間
急病	100	532	10,227	6,339	684	17,882	10分12秒
交通事故	27	95	1,268	634	34	2,058	9分19秒
一般負傷	16	110	2,388	1,325	123	3,962	9分59秒
その他	235	385	2,672	1,049	147	4,488	8分55秒
合計	378	1,122	16,555	9,347	988	28,390	9分54秒
構成比（%）	1.3	4.0	58.3	32.9	3.5	100.0	—
令和3年（%）	1.5	5.9	66.3	24.1	2.1	100.0	8分58秒

※現場到着所要時間とは、入電から現場に到着するまでに要した時間

9 収容所要時間の状況

傷病者の病院収容時間は、30分未満が7,161件（27.5%）となっており、病院収容時間の平均は41分3秒となっています。

収容所要 事故種別	10分 未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	合計	平均収容 時間
急病	0	217	3,630	10,451	1,960	110	16,368	42分16秒
交通事故	1	23	337	1,340	215	6	1,922	44分54秒
一般負傷	0	42	658	2,589	434	18	3,741	43分7秒
その他	2	537	1,714	1,534	189	19	3,995	32分23秒
合計	3	819	6,339	15,914	2,798	153	26,026	41分3秒
構成比（%）	0.0	3.1	24.4	61.1	10.8	0.6	100.0	—
令和3年（%）	0.0	4.0	31.2	58.9	5.7	0.2	100.0	36分46秒

10 応急処置実施状況

救急救命士等が行った救命処置は、389件（前年478件）となっています。

事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
応急処置	応急処置対象人数	16,345	1,920	3,729	3,896	25,890
	止血	52	67	246	43	408
	被覆	86	563	958	132	1,739
	固定	46	262	292	101	701
	保温	310	26	72	98	506
	酸素吸入	2,648	34	139	1,052	3,873
	人工呼吸のみ実施	30	1	1	5	37
	胸骨圧迫のみ実施	0	0	0	1	1
●	うち自動心臓マッサージ器使用	0	0	0	0	0
	心肺蘇生（胸骨圧迫・人工呼吸）	483	6	51	34	574
●	うち自動心臓マッサージ器使用	66	0	11	8	85
	気道確保	684	12	64	46	806
●	うち経鼻エアウェイ	4	0	0	1	5
●	うち喉頭鏡・鉗子等	7	0	4	0	11
●◎	うちラリngeアルマスク等	106	0	6	6	118
●◎	気管挿管	6	0	4	2	12
●	在宅療法継続	80	1	9	3	93
●	ショックパンツ	0	0	0	0	0
●◎	除細動	37	1	0	1	39
●◎	静脈路確保	90	1	11	9	111
	うち心肺停止前（ブドウ糖含む）	21	0	1	4	26
	うち心肺停止後	69	1	10	5	85
●◎	薬剤投与	17	0	1	1	19
	アドレナリン投与	7	0	1	1	9
	エピペン投与	1	0	0	0	1
	ブドウ糖投与	9	0	0	0	9
●◎	血糖測定	88	2	0	0	90
●	血圧測定	15,338	1,878	3,511	3,660	24,387
●	聴診器	1,739	70	185	136	2,130
●	血中酸素飽和度の測定	15,816	1,894	3,626	3,798	25,134
●	心電図	3,768	47	147	505	4,467
	その他	15,605	1,821	3,569	3,606	24,601
	合計	56,917	6,686	12,882	13,231	89,716
●	拡大された応急処置等	37,162	3,894	7,515	8,130	56,701
◎	特定行為等	344	4	22	19	389

（注）

「●」とは、拡大された応急処置の項目

「◎」とは、救急救命士が行う特定行為の項目

1 1 応急手当普及啓発活動の状況

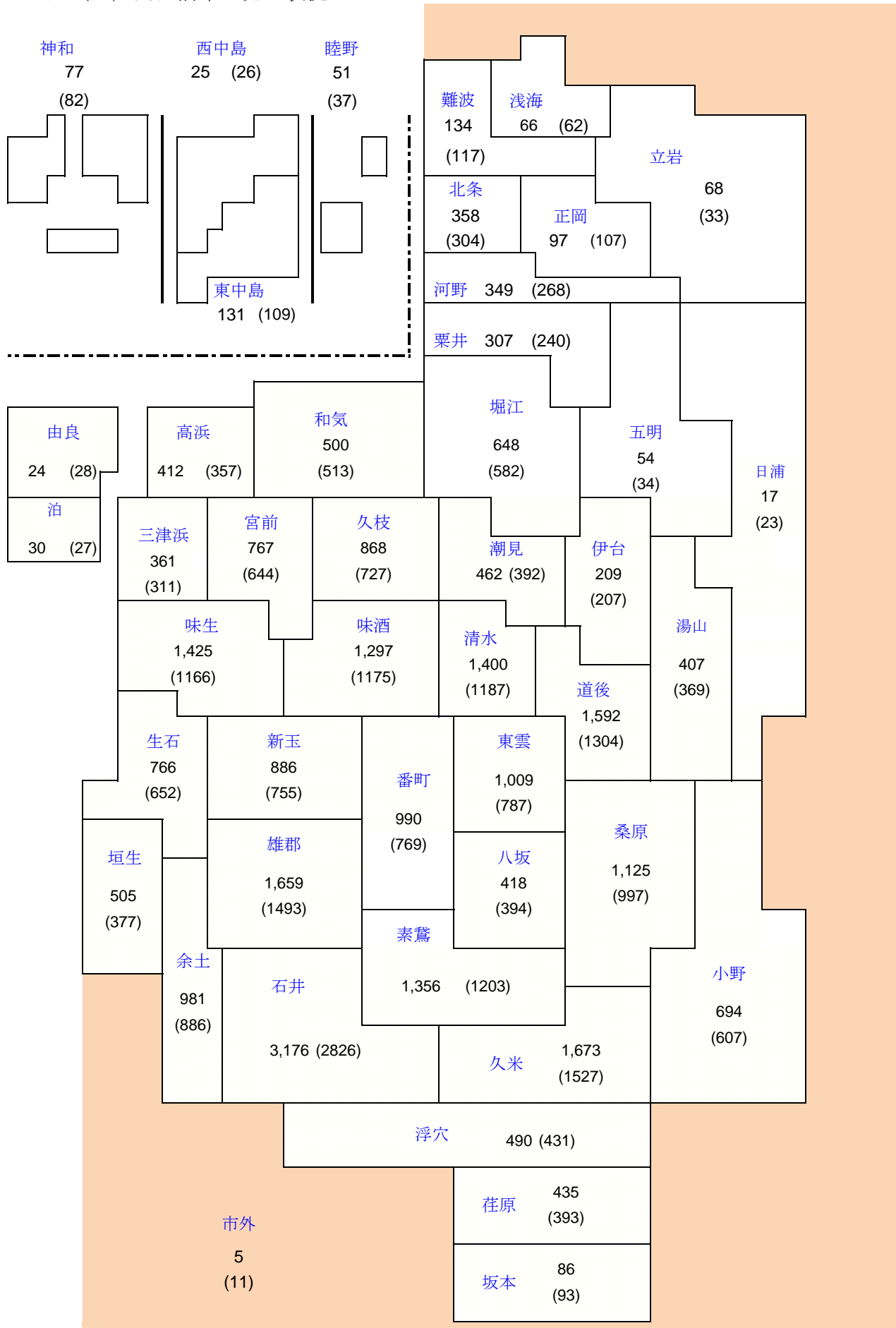
平成6年から令和4年までの29年間で、34万2,304人の市民が応急手当の講習を受講しました。

年	普通救命講習		上級救命講習		その他の講習		合 計	
	回数	受講人員	回数	受講人員	回数	受講人員	回数	受講人員
平成6年	23	944			57	2,850	80	3,794
平成7年	33	1,216			65	3,100	98	4,316
平成8年	42	1,607	2	112	77	4,395	121	6,114
平成9年	48	1,760	4	152	79	4,456	131	6,368
平成10年	67	2,474	5	153	88	4,669	160	7,296
平成11年	118	3,933	6	195	113	7,185	237	11,313
平成12年	133	4,014	8	228	110	6,425	251	10,667
平成13年	139	4,344	13	318	65	3,311	217	7,973
平成14年	152	4,914	33	838	84	3,510	269	9,262
平成15年	195	5,537	38	965	87	4,586	320	11,088
平成16年	219	5,286	41	1,376	59	2,698	319	9,360
平成17年	253	5,943	26	858	126	5,158	405	11,959
平成18年	344	8,631	41	1,124	132	5,781	517	15,536
平成19年	390	9,502	47	1,154	175	7,716	612	18,372
平成20年	389	9,600	43	1,175	216	9,721	648	20,496
平成21年	345	8,342	21	538	251	11,249	617	20,129
平成22年	335	7,910	19	489	217	11,474	571	19,873
平成23年	324	7,211	11	317	236	13,028	571	20,556
平成24年	356	8,389	11	236	201	9,848	568	18,473
平成25年	325	7,550	11	302	146	6,698	482	14,550
平成26年	355	8,014	14	381	158	6,687	527	15,082
平成27年	324	8,146	11	390	147	7,507	482	16,043
平成28年	327	7,905	8	256	138	6,116	473	14,277
平成29年	307	7,640	11	316	118	5,330	436	13,286
平成30年	314	7,666	11	279	121	4,694	446	12,639
令和元年	312	7,024	17	305	169	8,060	498	15,389
令和2年	99	1,806	1	7	20	721	120	2,534
令和3年	143	2,121	5	107	15	346	163	2,574
令和4年	149	2,202	4	82	29	701	182	2,985
合 計	6,560	161,631	462	12,653	3,499	168,020	10,521	342,304

1 2 地区別救急発生状況

出動件数 28,390 件 (前年 24,632 件)

※ () 内は前年の発生状況



救 助

救助の状況

令和4年中の救助出動件数は、248件（前年213件）、活動件数は、192件（前年159件）であり、前年と比較すると、出動件数は35件（16.4%）、活動件数は33件（20.8%）増加しています。

また、救助人員は152人（前年133人）で、前年と比較すると、19人（14.3%）増加しています。

1 救助出動等の状況

（▲は減少）

区 分		令和4年 A	令和3年 B	増減（A－B） C	増減率 C/B×100 （%）
出 動 件 数		248	213	35	16.4
活 動 件 数		192	159	33	20.8
救 助 人 員		152	133	19	14.3
内 訳	男性	79	71	8	11.3
	女性	73	62	11	17.7
出 動 台 数		1,370	1,223	147	12.0
出 動 人 員		4,477	4,136	341	8.2
事 故 種 別 出 動 件 数	火 災	19	17	2	11.8
	交 通	42	36	6	16.7
	水 難	8	14	▲ 6	▲ 42.9
	自 然 災 害	0	1	▲ 1	▲ 100.0
	機 械	1	8	▲ 7	▲ 87.5
	建 物	129	104	25	24.0
	ガ ス ・ 酸 欠	3	4	▲ 1	▲ 25.0
	破 裂	0	0	0	—
	そ の 他	46	29	17	58.6

（注）火災による出動件数は、救助活動を行なった件数のみ計上しています。

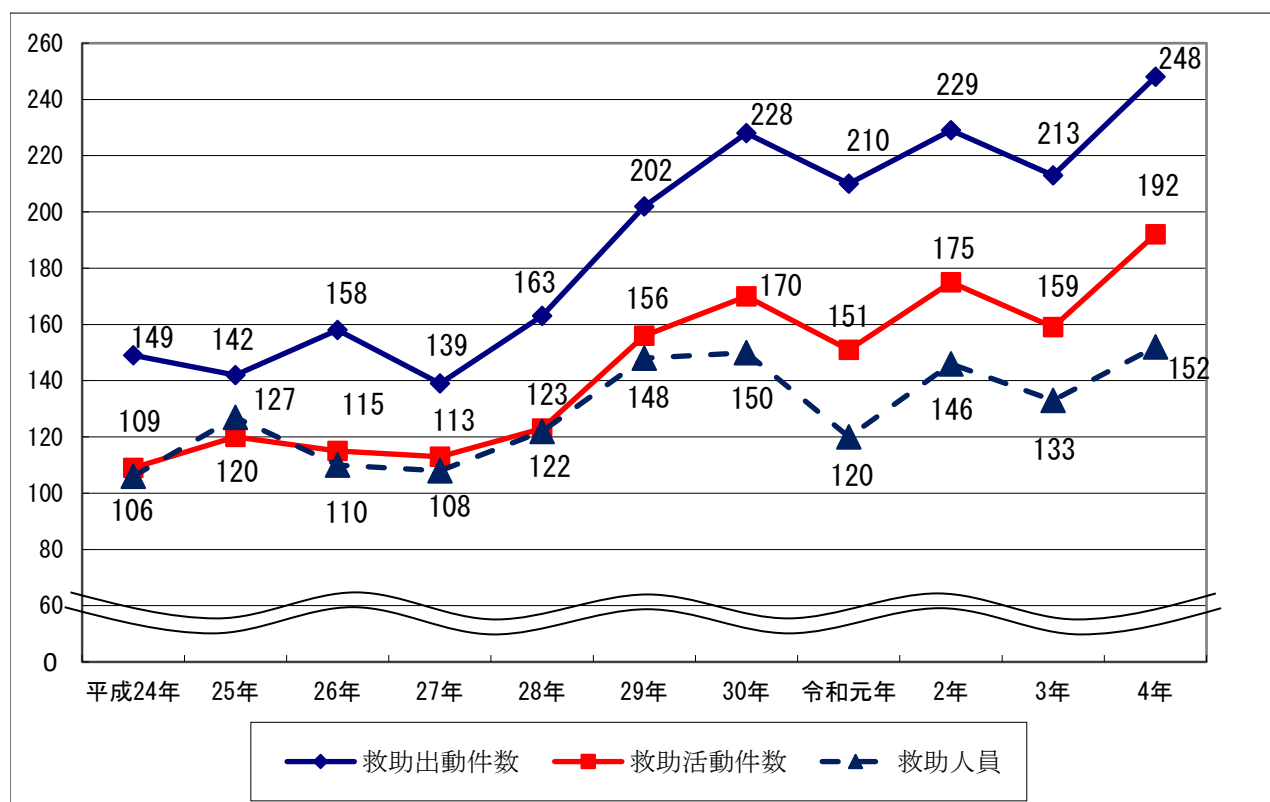
2 救助出動等の推移

10年前の平成24年を指数100とした場合、出動件数166、活動件数176、救助人員143となっています。

(▲は減少)

区分 年	救助出動件数			救助活動件数			救助人員		
	件数	指数	対前年 増減率 (%)	件数	指数	対前年 増減率 (%)	人数	指数	対前年 増減率 (%)
平成24年	149	100	—	109	100	—	106	100	—
平成25年	142	95	▲ 4.7	120	110	10.1	127	120	19.8
平成26年	158	106	11.3	115	106	▲ 4.2	110	104	▲ 13.4
平成27年	139	93	▲ 12.0	113	104	▲ 1.7	108	102	▲ 1.8
平成28年	163	109	17.3	123	113	8.8	122	115	13.0
平成29年	202	136	23.9	156	143	26.8	148	140	21.3
平成30年	228	153	12.9	170	156	9.0	150	142	1.4
令和元年	210	141	▲ 7.9	151	139	▲ 11.2	120	113	▲ 20.0
令和2年	229	154	9.0	175	161	15.9	146	138	21.7
令和3年	213	143	▲ 7.0	159	146	▲ 9.1	133	125	▲ 8.9
令和4年	248	166	16.4	192	176	20.8	152	143	14.3

(件/人)



3 事故種別・署別出動の状況

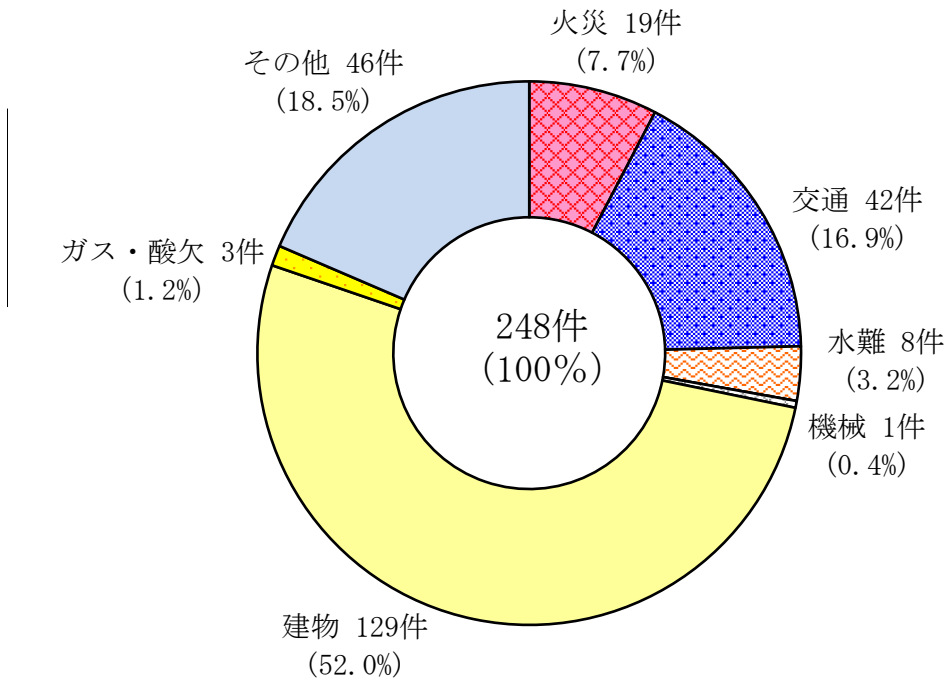
事故種別ごとに救助活動の状況をみると、出動件数で最も多いのは、建物等による事故の129件で、全体の52.0%を占め、次いでその他の事故の46件(18.5%)となっています。

活動件数で最も多いのは、建物等による事故の100件で、全体の52.1%を占め、次いでその他の事故の33件(17.2%)となっています。

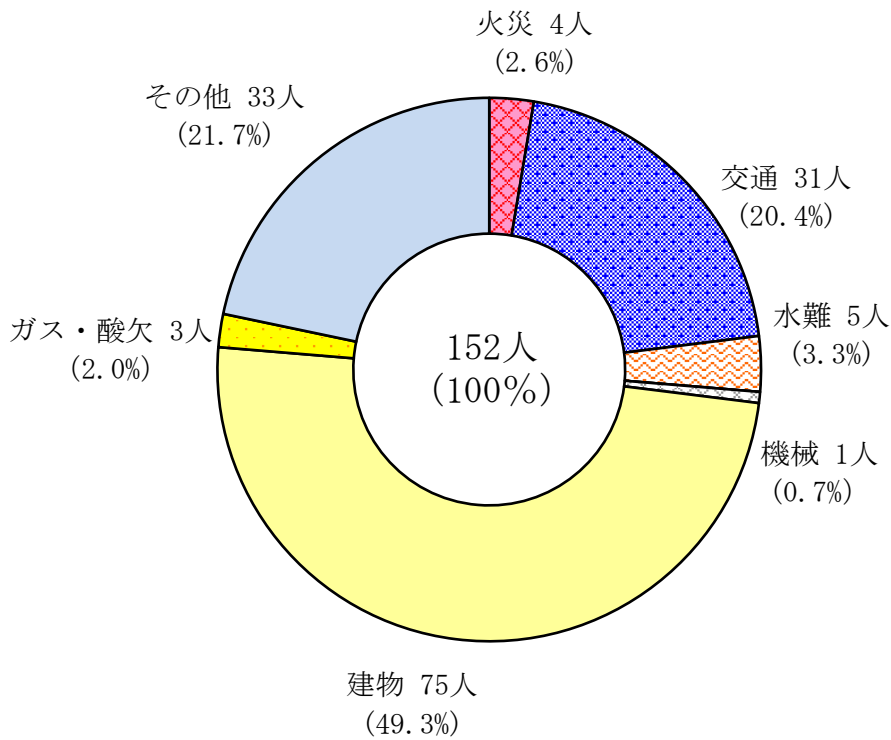
また、救助人員についても、建物等による事故が最も多く75人で、全体の49.3%を占め、次いでその他の事故の33人(21.7%)となっています。

事故種別 署別		火	交	水	自	機	建	ガス・酸欠	破	そ	合
		災	通	難	然	械	物		裂	他	計
中央消防署	出動件数	9	15	2			48	2		13	89
	活動件数	9	13	2			38	2		10	74
	救助人員	1	13	2			27	2		11	56
	出動台数	101	70	15			238	13		57	494
	出動人員	380	230	48			761	41		180	1,640
東消防署	出動件数	4	6			1	25	1		11	48
	活動件数	4	6			1	19	1		9	40
	救助人員	0	7			1	16	1		8	33
	出動台数	44	29			6	123	7		59	268
	出動人員	184	93			18	386	20		184	885
南消防署	出動件数	4	12				40			13	69
	活動件数	4	5				31			9	49
	救助人員	1	4				22			9	36
	出動台数	47	59				200			60	366
	出動人員	180	181				624			192	1,177
西消防署	出動件数	2	9	6			16			9	42
	活動件数	2	6	4			12			5	29
	救助人員	2	7	3			10			5	27
	出動台数	19	50	48			82			43	242
	出動人員	86	151	154			247			137	775
合計	出動件数	19	42	8	0	1	129	3	0	46	248
	構成比(%)	7.7	16.9	3.2	0.0	0.4	52.0	1.2	0.0	18.5	100.0
	活動件数	19	30	6	0	1	100	3	0	33	192
	構成比(%)	9.9	15.6	3.1	0.0	0.5	52.1	1.6	0.0	17.2	100.0
	救助人員	4	31	5	0	1	75	3	0	33	152
	構成比(%)	2.6	20.4	3.3	0.0	0.7	49.3	2.0	0.0	21.7	100.0
	出動台数	211	208	63	0	6	643	20	0	219	1,370
出動人員	830	655	202	0	18	2,018	61	0	693	4,477	

事故種別出動件数と構成割合



事故種別救助人員と構成割合



4 月別救助出動等の状況

月別に出動の状況をみると、1月が最も多く27件で、次いで5月と11月の24件となり、月平均20.7件の出動となっています。

区分 月別	出動件数	活動件数	救助人員	事故種別出動件数								
				火災	交通	水難	自然	機械	建物	ガス・酸欠	破裂	その他
1月	27	22	17	4	4	1		1	12	1		4
2月	16	16	10	2	3				10	1		
3月	23	19	15	1	1	4			12			5
4月	21	16	13	2	3				11			5
5月	24	17	14	1	3				14	1		5
6月	20	17	15		6				11			3
7月	21	14	10	1	5				11			4
8月	21	15	13	2	3				12			4
9月	20	16	13	2	1	1			11			5
10月	13	9	9		2				5			6
11月	24	16	11	2	5	2			11			4
12月	18	15	12	2	6				9			1
合計	248	192	152	19	42	8	0	1	129	3	0	46

5 事故種別・傷病程度別救助人員

救助人員を事故種別・傷病程度別で見ると、建物等による事故の中等症が34人（22.4%）と最も多く、次いで建物等による事故の軽症の29人（19.1%）、交通事故の軽傷の17人（11.2%）の順になっています。

区分	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
火災	2				2	4
交通	2	2	7	17	3	31
水難	3			2		5
自然						0
機械			1			1
建物	1	1	34	29	10	75
ガス・酸欠	1		2			3
破裂						0
その他	3	2	9	11	8	33
合計	12	5	53	59	23	152

6 発生場所別の出動状況

発生場所別に出動の状況を見ると、屋内が151件で、出動件数全体の60.9%を占め、屋外は97件で39.1%となっています。

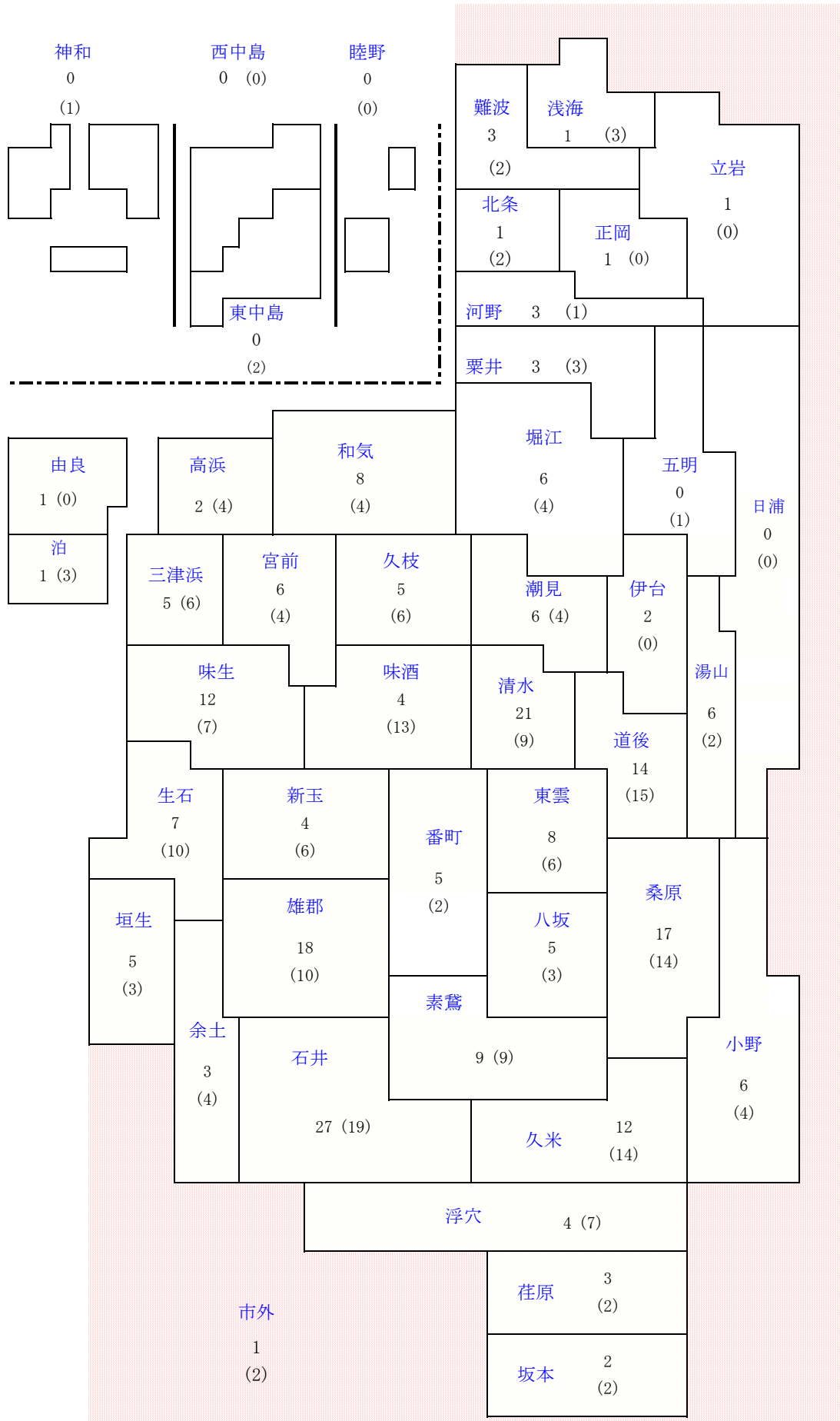
事故種別 発生場所別	火災		交 通	水 難	自 然	機 械	建 物	ガ ス ・ 酸 欠	破 裂	そ の 他	合 計
	建 物	建 物 以 外									
屋 内	19						127	2		3	151
	4						73	2		2	81
住 居	18						122	2		1	143
	4						69	2		1	76
その他の屋内	1						5			2	8
							4			1	5
屋 外			42	8		1	2	1		43	97
			31	5		1	2	1		31	71
高 速 道 路			1								1
											0
その他の道路			27							5	32
			20							3	23
内 水 面			2	1						2	5
			2	1						2	5
外 水 面				7							7
				4							4
山 岳										1	1
										1	1
その他の屋外			12			1	2	1		35	51
			9			1	2	1		25	38
地 下											0
											0
そ の 他											0
											0
合 計	19	0	42	8	0	1	129	3	0	46	248
	4	0	31	5	0	1	75	3	0	33	152

(注) 救助人員数

7 地区別救助出動状況

出動件数 248件 (前年 213件)

※ () 内は前年の発生状況



令和4年 火災・救急・救助統計

- 火災統計に関するお問合せは
松山市消防局予防課 火災調査担当
TEL: (089) 926-9247 FAX: (089) 926-9163
E-Mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp
- 救急・救助統計に関するお問合せは
松山市消防局警防課 救急担当、消防・救助担当
TEL: (089) 926-9227 FAX: (089) 926-9188
E-Mail: sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp